（様式1）

学校番号	79	学校名	茨城県立鬼怒商業高等学校

令和7年度道徳教育全体計画

諸法規

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
茨城県教育委員会施策

校訓

誠実

学校の教育目標

本県教育の目標及び校訓をふまえ、地域社会の要請に応えながら、人間性豊かな個性の伸長を図り、教養ならびに専門的な知識を高め、自主性・自律性を備え、時代の変化やグローバル化に対応できる地域のリーダーとなる人材を育成する。

生徒の実態

明るく素直な生徒が多い。生徒指導に力を入れてきた成果が上がり、生徒たちの多くが落ち着いて学習に取り組んでいる。
資格の取得や部活動、学校行事に多くの生徒が意欲的に取り組み、目的意識を持って学校生活を送っている様子が伺える。

保護者の願い

学習・行事・部活動の充実と望ましい人間関係の構築に加え、幅広い進学希望への対応と地域社会に貢献できる企業への就職。

道徳教育重点目標

・問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付け、社会の形成に主体的に参画しようとする意欲を育てる。
・自立心や自立性を高め、高い規範意識を育てる。
・ボランティア活動を通して、生命を尊重する態度を育てる。

地域の実態

県内有数の農業地帯であり、近年は外国籍の住人も増加している。地元経済界から、商業高校である本校に対する期待は大きい。保護者も学校の教育活動に協力的である。

各教科・科目

国語	生涯にわたる社会生活における他者との関わりのなかで伝え合う力を高め、他者に対する想像力を伸ばす。
地歴	広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会に有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
数学	数学的活動を通して、粘り強く考え判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
理科	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
保体	運動や健康についての自他や社会の課題の解決に向けて思考、判断して他者に伝える力と、生涯を通じて明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
外国語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
家庭	様々な人々と協働しながら、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。
情報	情報社会と人との関わりについての理解を深め、情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
総合的な探究の時間	自己の在り方生き方を考えながら、実社会や自己との関わりから課題を発見し解決していく過程で、探求に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
専門	地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人に必要な倫理観と豊かな人間性を育む。

特別活動

ホームルーム活動

・自他の個性の理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、コミュニケーションを図りながらよりよい集団をつくることを促す。

・ホームルーム活動や学校行事を通して、生徒が主体的に自らの役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践することを促す。

・社会的・職業的自立の意義の理解と社会参画意識の醸成、勤労観・職業観の形成を促す。

「生徒会」

学年の異なる生徒たちが協力しながら、学校生活の充実と向上のために、計画を立て役割を分担して生徒会を運営し、学校内の諸問題の解決に自主的・実践的に取り組むことを目指す。

「学校行事」

全校や学年の生徒同士で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う。

「インターンシップ」（第2学年）

実際に職場体験することで、勤労観や職業観を身に着け，自己実現の一助とする。

公民科

公共

よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

公共的な空間をつくる私たち
1　大人ってどんな人？
2　お互いを理解し尊重するために
3　誰もが生きやすい社会へ
青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴を振り返りながら、青年期の特徴や発達課題について理解する。
青年期に求められていることは何かを幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について気づき、考える。
日常使われている言葉の意味や用法に伝統・文化が関わっていることに気づき、それがどのような課題につながっているか考察する。

生徒指導

・HR、面談等を通して教師と生徒、生徒相互の心の交流を図り、生徒一人一人が意欲を持って将来を展望できるように援助する。
・ルールやマナーを守ろうとする規範意識を育成する。
・心身ともに健康で安全な生活態度や基本的生活習慣を確立させる。
・いじめの防止や安全の確保に資するよう留意し、利他の心や生命を大切にする心を育てる。
・生徒の指導については、学校全体で組織的に取り組む。

家庭との連携

・7月に保護者面談を行い、保護者と直に顔を合わせて話す機会を設ける。
・保護者対象の学校評価アンケートを実施し、保護者の考えを教育活動に活かす。
・日ごろから、家庭との連絡や交流を密にして、協力体制を整える。
・学校のホームページ等を活用して、学校の様子が保護者に伝わるよう工夫する。

地域社会との連携

・鬼怒商を軸とした地域ネットワークの構築を目指し、地域の方々や外部組織と連携し、結城市を含めた周辺地域の活性化に向けて、社会参加型学習を進めていく。
・地域企業でのインターンシップ等の活動を通して、職業観や社会性の育成に努める。
・地域の特別支援学校との交流や地域で募集されている様々なボランティア活動に参加することで奉仕の精神を育む。